

* * 2026年1月改訂(第3版)
* 2025年4月改訂(第2版)

貯 法：室温保存
有効期間：2年

日本標準商品分類番号

872655

承認番号	30100AMX00091000
販売開始	2007年7月

外用抗真菌剤
日本薬局方 ケトコナゾールローション
ケトコナゾールローション2%「MYK」
Ketoconazole Lotion 2% "MYK"

2. 禁忌(次の患者には投与しないこと)

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

3. 組成・性状

* * 3.1 組成

販売名	ケトコナゾールローション2%「MYK」
有効成分 (1g中)	日局ケトコナゾール20mg
添加剤	クロタミトン、ソルビタンセスキオレイン酸エステル、ポリオキシエチレンセチルエーテル、ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油40、ラウロマクロゴール、中鎖脂肪酸トリグリセリド、濃グリセリン、エデト酸ナトリウム水和物、カルボキシビニルポリマー、カルメロースナトリウム、パラオキシ安息香酸プロピル、パラオキシ安息香酸メチル、クエン酸水和物、水酸化ナトリウム

3.2 製剤の性状

販売名	ケトコナゾールローション2%「MYK」
剤形 色調 におい	わずかに特異なにおいがある白色の乳剤性ローション剤

4. 効能又は効果

下記の皮膚真菌症の治療

○白癬：足白癬、体部白癬、股部白癬

○皮膚カンジダ症：指間糜爛症、間擦疹（乳児寄生菌性紅斑を含む）

○癪風

○脂漏性皮膚炎

6. 用法及び用量

〈白癬、皮膚カンジダ症、癪風〉

白癬、皮膚カンジダ症、癪風に対しては、1日1回患部に塗布する。

〈脂漏性皮膚炎〉

脂漏性皮膚炎に対しては、1日2回患部に塗布する。

9. 特定の背景を有する患者に関する注意

9.5 妊婦

妊娠又は妊娠している可能性のある女性には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。

2%ケトコナゾールクリームは、皮膚からはほとんど吸収されないが、経口投与における動物実験で催奇形作用が報告されている¹⁾。

9.6 授乳婦

治療上の有益性及び母乳栄養の有益性を考慮し、授乳の継続又は中止を検討すること。

9.7 小兒等

小兒等を対象とした臨床試験は実施していない。

11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

11.2 その他の副作用

	5%以上	0.1~5%未満	頻度不明
皮膚	刺激感	そう痒、接触皮膚炎、紅斑、水疱	皮膚灼熱感、発疹、皮膚剥脱、皮膚のべとつき感、蕁麻疹、糜爛、亀裂、疼痛
全身障害及び投与局所様態			適用部位反応（出血、不快感、乾燥、炎症、錯覚、浮腫）
免疫系障害			過敏症
その他		尿蛋白陽性	

14. 適用上の注意

14.1 薬剤投与時の注意

14.1.1 よく振って使用すること。

14.1.2 眼科用として角膜、結膜に使用しないこと。

14.1.3 著しい糜爛面には使用しないこと。

16. 薬物動態

16.1 血中濃度

2%ケトコナゾールクリーム5gを健康成人の背部に単純塗布した時、ケトコナゾールの血中濃度は検出限界（1ng/mL）以下であった²⁾。

16.5 排泄

2%ケトコナゾールクリーム5gを健康成人の背部に単純塗布した時、尿中への未変化体の排泄は検出限界（1ng/mL）以下であった²⁾。

* * 17. 臨床成績

17.1 有効性及び安全性に関する試験

〈脂漏性皮膚炎〉

17.1.1 国内第Ⅲ相試験

ローション剤61例、クリーム剤63例において以下の臨床効果が示された³⁾。

疾患名	(ローション)		(クリーム)	
	改善率 (改善以上症例数/症例数)	改善率 (改善以上症例数/症例数)	改善率 (改善以上症例数/症例数)	改善率 (改善以上症例数/症例数)
脂漏性皮膚炎	73.8% (45/61)		71.4% (45/63)	

ローション剤における安全性評価対象例69例中、副作用は11例(15.9%)に計16件が認められた。内訳は、刺激感8件(11.6%)、そう痒3件(4.3%)、尿蛋白陽性2件(2.9%)、接触皮膚炎1件(1.4%)、紅斑1件(1.4%)、小水疱1件(1.4%)であった。

* * 18. 薬効薬理

18.1 作用機序

真菌の細胞膜の構成成分であるエルゴステロールの生合成阻害作用を介して抗真菌作用を示す⁴⁾。

18.2 抗真菌作用

ケトコナゾールは皮膚糸状菌 (*Trichophyton* 属、*Microsporum* 属、*Epidermophyton* 属)、*Candida* 属、癧風菌 (*Malassezia furfur*) に対して強い抗真菌作用を示した⁵⁾。

18.3 実験的治療効果

モルモット実験的白癬 (*Trichophyton mentagrophytes* 感染) モデルに対し、感染後3日後からケトコナゾールローション2%「MYK」を1日1回塗布した実験では、2週間の塗布で皮膚の病変進行の抑制及び感染部位の菌を死滅させるなど高い治療効果を示した。

モルモット実験的カンジダ症 (*Candida albicans* 感染) モデルに対し、感染後5日後からケトコナゾールローション2%「MYK」を1日1回塗布した実験では、3日間の塗布で生菌数の有意な低下など優れた治療効果を示した⁶⁾。

18.4 生物学的同等性試験

モルモット背部の*Trichophyton mentagrophytes* 感染に対し、ケトコナゾールローション2%「MYK」は無処置群及び基剤群に比較して有意な治療効果を示した。ニゾラールローション2%との比較においては、いずれも両剤間に有意差は認められず、両剤の生物学的同等性が確認された。モルモット背部の*Candida albicans* 感染に対しても同様にケトコナゾールローション2%「MYK」は無処置群及び基剤群に比較して有意な治療効果を示し、ニゾラールローション2%との生物学的同等性が確認された⁷⁾。

19. 有効成分に関する理化学的知見

一般的名称：ケトコナゾール (Ketoconazole)

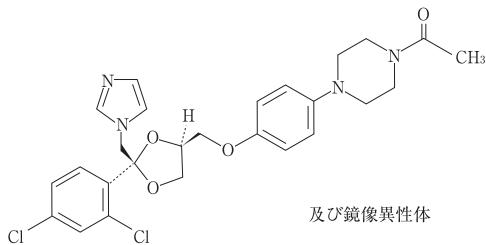
化学名：1-Acetyl-4-(4-[(2RS, 4SR)-2-(2, 4-dichlorophenyl)-2-(1H-imidazol-1-ylmethyl)-1, 3-dioxolan-4-yl]methoxy}phenyl)piperazine

分子式：C₂₆H₂₈Cl₂N₄O₄

分子量：531.43

性 状：白色～淡黄白色の粉末である。

化学構造式：



及び鏡像異性体

融 点：148～152°C

溶解性：メタノールにやや溶けやすく、エタノール(99.5)に
やや溶けにくく、水にほとんど溶けない。

メタノール溶液 (1→20) は旋光性を示さない。

20. 取扱い上の注意

小児の手の届かない所に保管すること。

22. 包装

10g×10

* * 23. 主要文献

- 1) 西川智, 他 : 基礎と臨床. 1984; 18, 1433-1448
- 2) 小林孝志, 他 : 薬理と治療. 1991; 19, 1857-1861
- 3) 五十嵐敦之, 他 : 臨床医薬, 2003; 19, 355-369
- 4) Vanden Bossche H, et al. : Br J Clin Pract. 1990; 44 (Suppl. 71), 41-46
- 5) Van Cutsem J, et al. : Am J Med. 1983; 74 (1B), 9-15
- 6) (株)MAE 社内資料 : 薬効薬理試験
- 7) (株)MAE 社内資料 : 生物学的同等性試験

24. 文献請求先及び問い合わせ先

共和薬品工業株式会社 お問い合わせ窓口
〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4
TEL 0120-041-189 FAX 06-6121-2858

26. 製造販売業者等

* 26.1 製造販売元

株式会社 MAE

富山県富山市向新庄町一丁目18番47号

26.2 販売元

共和薬品工業株式会社

大 阪 市 北 区 中 之 島 3 - 2 - 4